

石仏調査ニュース

ちがさきの石仏

第 4 号

発行 茅ヶ崎市文化資料館
(市教育委員会)
編集協力 文化資料館と活動する会
(民俗行事部)

連絡先 茅ヶ崎市文化資料館
〒253 茅ヶ崎市中海岸2-2-18
-0055 ☎0467-85-1733

文化資料館特別展の開催

平成十二年二月十七日から二十七日までの正味十日間、茅ヶ崎市市民ギャラリー展示室において文化資料館特別展「路傍の石仏―鶴嶺地区―」が開催されました。

市教育委員会社会教育課(文化資料館)の事業を「文化資料館と活動する会」(民俗行事部会)のメンバー等が協力して、これまで調査がほぼ完了した鶴嶺地区の石仏を、写真を主体に展示しました。展示会と並行して、次のような講演会も開かれ、好評を得ました。

- 二月十九日(土) 「茅ヶ崎の石仏」
市教育委員会 平野 文明
- 二月二十日(日) 「大磯の石仏」
大磯町郷土資料館学芸員 佐川 和裕氏

二月二十六日(土) 「平塚の石仏」

平塚市博物館学芸員 浜野 達也氏
二月二十七日(日) 「藤沢の石仏」
藤沢市文化財保護推進員 山本 力氏

大磯町、平塚市、藤沢市と茅ヶ崎市とは隣同士のような地区なのに、石仏の種類や造立の年代にも違いがあるものだと感心もし驚かされました。

展示は写真の外に実物の石仏として矢畑の本社宮境内の道祖神2基と恵比寿、宇賀神を神社役員の方々のお許しを得て借用し、また、今宿の今井様のご厚意により風邪の神(ギャーギ婆さん)を借用し展示しました。そして、道祖神のお祭りのお飯屋を造り、飾りました。

石仏に関する参考文献、資料や石仏の調査カードも展示しました。
お陰を持ちまして、展示会の見学者は総計五百人を越え、講演会へも多くを参加者を迎えました。

寒い中、お運びいただいた方々、及び開



催にご協力頂いた方々にこの紙面をもって御礼を申し上げます。

石仏調査 今後の予定

☆現地調査

- 三月十七日(金) 補充調査(鶴嶺地区)
- 集合場所 市役所分庁舎 午前十時
- 四月二十一日(金) 場所は未定
- 五月十九日(金) 場所は未定
- 雨天の場合は資料館でカード整理を行います。

☆まとめと勉強会

- 四月二十七日(木) 文化資料館
午後一時三十分～十五時
- なお、本年度の「まとめと勉強会」は以後、しばらくの間、隔月とし、調査カードの整理を行う予定です。
- ☆石仏の調査などに参加をご希望の方は社会教育課文化財保護担当までお問い合わせ下さい。内線番号3343



寄稿・投稿・会員通信

六道・六観音・六地藏

曾禰正夫

娑婆(しゃば)といわれているわれわれの住む世界では、悪いことをすれば、死んでから生前の行い如何によって、生まれ変わるといわれています。

最も重い刑から地獄・餓鬼(がき)・畜生(ちくしょう)・修羅(しゅら)・人間道・天道の六道といわれ、一切の迷いの世界にある、あらゆる生類の救済の対象に、観音さまがあたられるとされています。

観音さまは観世音菩薩(略して聖(しょう)・観音)とい、さまざまに姿に変身して、生類を救って下さるとされています。

観音さまは、はじめ天台宗の「摩訶(まか)止観」に説かれている大慈・大悲・師子無畏(ししむい)・大光普照(だいこうふしょう)・天人丈夫(てんにんじょうぶ)・大梵深遠(だいぼんしんおん)の六体とされています。しかし、後世、古くから親しまれてきた仏様を、聖(しょう)、千手(せんじゆ)、馬頭(ばとう)、十一面、不空縑索(ふくうけんさく)、如意輪(に

よいりん)の各観音さまを天台宗系統では六観音と称して信仰しています。たゞ、真言宗系統では不空縑索観音に代わって、准胝(じゆんてい)観音を入れて、やはり六観音としております。

六道と六観音の関係は、表に示すように地獄へ落ちていった者への救済は聖(しょう)、餓鬼へは不空縑索(または准胝)、天道へは如意輪の各観音とされておりま

す。 釈尊入滅後、五十六億七千万年後、弥勒(みろく)菩薩があらわれるまでの間を無仏の世界に住し、釈尊の救いに洩れたものを、ことごとく済度するという救済主に、釈迦は地藏菩薩をあてられ、平安時代より今日まで「お地藏さま」として、もともと親しみやすい姿で尊信されています。

地藏菩薩の持物(じもつ)は、右手に錫杖(しゃくじょう)、左手にはあらゆる願い事(こころ)をかなえて下さるといふ宝珠(ほうじゆ)という珠をもって、蓮華の台座に立っております。

地藏菩薩は地藏・宝手(ほうしゅ)・宝処(ほうじょ)・宝印手(ほういんしゅ)・持地(ぢち)・堅固意(けんごい)の六体の各菩薩からなっており、通常、六地藏といわれて信仰されています。

六道と六地藏菩薩との関係も、表に示すように地獄へは地藏、餓鬼へは宝手、畜生へは宝処、修羅へは宝印手、人間道へは持地、天道へは堅固意の各菩薩が救済して

下さるといわれています。

中世以降、六地藏は個々に一体ずつ祭る方式、また、関連する六寺に分散して祭る方式、二体ずつ三基に祀る方式、一体ずつ六体を横並べにする方式など、さまざまな方式がとられています。

石仏・木彫(仏像彫刻)を問わず、六観音、六地藏を含む仏像を調査しながら観賞するときは、そこには仏像としての厳しさと慈悲がよみとれ、力を感じとれます。

(追記) 六道の辻

市内南湖の魚市場の近くに、古くから「六道の辻」(南湖三一六)といわれている所があります。

「六道の辻」とは広辞苑に「昔、京都・鳥辺山の火葬場へゆく辻の名」と有り、この言葉は私には何となく、気味悪く感じられてなりません。

南湖のこの地の近くに、明治三一年(一八九八)、当時の茅ヶ崎村長・伊藤里之助が、「佐々木氏(卯之助)追悼記念碑」を建て、その後碑は、昭和の中頃まで建てておりました。(現在は、東海岸北五丁目路傍に移設)

佐々木卯之助は、江戸末期、新田開発に關する罪で青ヶ島に流され、三〇年後、島で死亡したとされ、碑が南湖にあった当時、南湖はあまり開けていなかった記憶のみが残っています。

表 六道・六観音・六地藏の関係

天 上 道	人 間 道		修 羅	畜 生	餓 鬼	地 獄	六 道	
	天 台	真 言					観 音	地 蔵
如 意 輪 観 音	不 空 絹 索 観 音	准 胝 観 音	十 一 面 観 音	馬 頭 観 音	千 手 観 音	聖 観 音	観 音	六 観 音 真 言 宗 天 台 宗
多 臂 像 で、 も っ と も 多 い の は 六 臂 像 で す	東 大 寺 は 一 面 三 目 十 八 臂 像 で 他 は さ ま ざ ま で あ る	一 面 三 目 十 八 臂 像 が 一 般 的 で あ る	本 面 を 加 え て 十 一 面 	三 面 二 臂 ま た は 八 臂 像 (持 物 は さ ま ざ ま で 鉞 斧 (え っ ぷ) と 蓮 華 は 多 く 像 で ど ち ら か で 持 つ)	一 面 三 眼 千 臂 像 〔一 般 的 に は 四 十 二 臂 像 が 多 く 作 ら れ る〕	一 面 二 臂 で 右 手 に 蓮 の 花、 左 手 に 水 瓶 (す い び よ う)	像 容	
大 堅 固 地 蔵 (堅 固 意 菩 薩)	大 清 浄 地 蔵 (持 地 菩 薩)	大 清 浄 地 蔵 (宝 印 手 菩 薩)	清 浄 無 垢 地 蔵 (宝 印 手 菩 薩)	大 光 明 地 蔵 (宝 処 菩 薩)	大 德 清 浄 地 蔵 (宝 手 菩 薩)	大 定 地 悲 地 蔵 (地 蔵 菩 薩)	地 蔵	六 地 蔵
右 手 左 手 經 冊 宝 珠	右 手 左 手 施 無 畏 宝 珠	右 手 左 手 梵 籛 宝 珠	右 手 左 手 梵 籛 宝 珠	右 手 左 手 如 意 宝 珠	右 手 左 手 与 願 印 宝 珠	右 手 左 手 錫 杖 宝 珠	持 物 (じ も つ)	

写真展のお知らせ

「文化資料館と活動する会」では(考古部会)(自然部会)(民俗行事部会)合同で、平成十一年度の活動の様子の写真にまとめ、平成十二年三月二十七日(三十一日、市役所口ビレ)において展示します。

調査済み石仏一覧

第三号までに記載以降の石仏を紙面が許す範囲で紹介します。

- 平成十年十一月二十日
- 浜之郷 龍前院
- 六地藏 天保一二年(一八四一) 丸彫立像
- 地藏 天保一四年(一八四三) 光背半肉彫
- 地藏 元禄六年(一六九三) 光背半肉彫
- 馬頭観音 元治二年(一八六五) 角柱文字
- 弘法大師 文政三年(一八二〇) 丸彫坐像
- 聖観世音菩薩 元文三年(一七三三) 光背立像
- 観世音菩薩 享和元年(一八〇一) 光背立像
- 二十三夜塔? 慶応元年(一八六五) 角柱文字
- 浜之郷 鶴嶺八幡社
- 稻荷(狐像)
- 灯籠 天保五年(一八三四)

灯籠
手洗鉢又は線香立て
線香立て?

■平成十年十二月十八日

- 浜之郷 龍前院
- 地藏 文政九〇
- 丸彫立像
- 庚申塔 明暦三年(一六五七) 板碑型
- 庚申塔 享保二年(一七三六) 笠付角柱立像
- 庚申塔 元文元年(一七三六) 光背立像
- 子育地藏 天保二年(一八三一) 丸彫坐像
- 灯籠 宝暦一年(一七六一)
- 線香立て
- 平成十一年一月二十二日
- 西久保 宝生寺
- 北向地藏 文久二年再建(一八六二) 丸彫坐像
- 地藏 丸彫坐像
- 地藏 貞享三年(一六八六) 光背立像
- 六地藏 不詳 丸彫立像
- 平成十一年二月十九日
- 西久保五七二路傍
- 庚申塔 万延元年(一八六〇) 角柱立像
- 道祖神 明治二年(一八七九) 自然石文字
- 道祖神 安永〇〇 光背双体立像
- 西久保 宝生寺
- 弘法大師 天保一〇年(一八三九) 丸彫坐像
- 大日如来 宝永元年(一七〇四) 光背坐像
- 大日如来 享保一四年(一七二九) 光背坐像
- 国重文指定碑(鶴嶺八幡旧鳥居残材)
- 道標 角柱文字
- 寺号碑 大正七年(一九一八)

■平成十一年三月十九日

- 西久保 日吉神社
- 庚申塔 延宝八年(一六八〇) 板碑型
- 道祖神 寛政六年(一七九四) 角柱文字
- 狛犬(左) 昭和一六年(一九四一)
- 狛犬(右) 昭和一六年(一九四一)
- 灯籠(左) 昭和一六年(一九四一)
- 石灯籠(右) 昭和一六年(一九四一)
- 鳥居 昭和一五年(一九四〇) 神明型
- 道標 角柱文字

■平成十一年四月十六日

- 円蔵二五〇四 ひざし野団地入口
- 道祖神 天保一〇年(一八三九) 自然石文字
- 西久保一五二二 三堀氏門前
- 道祖神 享保一二年(一七二七) 光背立像
- 西久保一六〇七 三堀市郎氏宅前
- 道祖神 不明 自然石双体立像
- 西久保 妙運寺
- 題目塔 天明元年(一七八一) 角柱文字
- 題目塔 寛延四年(一七五二) 角柱文字
- 題目塔 明治一三年(一八八〇) 角柱文字
- 西久保一五〇四 三堀氏邸裏
- 地藏菩薩 寛政五年(一七九四) 丸彫立像

